

2019年

愛知スキー協会 第48回

定期総会 議案書



主催 全国勤労者スキー協議会・東海ブロック協議会・愛知スキー協会

第 48 回 愛知スキー協会定期総会議事内容

2019 年 7 月 7 日

日程及び運営

12:45 受付 三宅幸一・水谷啓子

13:00 開会 司会 東 雅夫
議長選出
総会役員選出
来賓あいさつ
スポーツ連盟愛知県連盟理事長
全国勤労者スキー協議会 理事長
理事長あいさつ

13:10 資格審査委員会報告 選挙管理委員会報告 議事運営委員会報告
議事 議案(15分) 会計報告(5分) 会計監査報告(1分) 質問
全国代表者会議報告(5分)

14:00 各クラブ、各部からの活動報告(各5分)

14:30 分散会 ①担当：寺田康男 ②担当：首藤秀一
資格審査委員会報告
選挙管理委員会報告

16:00 分散会の報告 質疑応答 全員討議 決議採択

16:30 役員選挙 選挙管理委員会報告

16:40 第1回理事会

16:50 新役員あいさつ

16:55 閉会

17:00 会場設営、買出し
準備出来次第、懇親会開始

19:30 懇親会終了 後かたづけ

20:00 解散

総会役員(案)

資格審査委員 2名 (三宅幸一・水谷啓子)

議長 2名 (経塚茂・土屋和雄)

書記 2名 (加藤真理子・永田政広)

議事運営 役員(寺田 浅井 永田)

役員選考委員 役員

選挙管理委員 2名 (澤田安利 大城敏雄)

はじめに

スキー協らしい新たな裾野の広がり求めて!

私たち全国勤労者スキー協議会は2019年2月に50周年を迎えました。これまで組織を支えてきた先人たちの業績を引き継ぎながら、厳しい状況の中でも組織的な前進の可能性を模索しながら確実に前に向かっていきたいと思えます。

人間の関わりで起こる 異常気象や自然災害、とりわけ雪不足の問題は、わたしたちの一番の関心事です。政治的には、G20 を経て参議院選挙そして衆議院選挙を、その結果次第で日本がアメリカの為に更に大きく動く可能性をほらみ、それは、対中国やアジアの中での日本の位置づけにも、平和と経済の問題としても関わってきます。国内においては、「社会保障のための消費税増税」も「100年安心の年金」もまるで詐欺同然のやり方で将来への不安がつつります。

スポーツ界では、バスケットボール NBA 一巡目指名、陸上100メートルの記録、野球や卓球、バドミントンの日本人選手の活躍が華々しく報道され、オリンピックに沸くなかでスポーツに対する関心や感心や感震に揺らぐ年になりそうです。私達のスポーツ連盟の一員としての役割や反核平和マラソン、平和行進、にもカンシンが集まります。

愛知スキー協のここ数年目指してきた方向性の一つが専門性の追求です。そして、スキー協らしい楽しさおもしろさを追求して、特化しようということです。行事ごとに技術の向上のためには、組織としてどうとらえるか、技術論と組織論を常に平行して捉えるように働きかけてきました。また、運営面でも「民主的な人間関係」を育てる観点を重要視すれば、それが楽しさおもしろさの原点になると、それをさらに具体的に発展させたいと思えます。

スキー協はクラブが基本です。会員が主人公であり、会員個々の要求に基づいて計画を立て、実践していきます。常に同じ事に満足せずさらにその先に行く食欲さと追求心を持ちましょう。

毎年、同じ人が同じ担当をやり続けている様で、今年初めての出来事が必ず有るはずで。そこには、新しい展開に繋がる何かがあるはずで。ヨーク考えて見つけ出しましょう!!!

3年後あなたは、クラブにいますか?あなたは、クラブやスキー協は、どんな形で存在していると思えますか?今とは違っているはずで。クラブをどんな状態で残せますか?

今年初めて、東海ブロック総会を開催しました。

特に、若い世代をいかに取り込み、そして比率を増して行くことは絶対に必要なことです。ですが、その為に、出来ない事、ないものを目指し据える事はやめましょうという意見がでました。

意欲的に新しい事に挑戦しないということではありません。逆に今まで築いてきた人間関係を崩さずに、あなたらしい新たな関わり方をそれぞれが、無理をしない新しい方法でできないか模索しようとするものです。

現実のなかで、多く居る経験豊かな世代が先頭に立って、さらにおもしろさを広げている背中を見せつける事が今こそ大事なことです。その議論の中で平日スキーヤーの組織化は、毎日休日を担ったにもかかわらず進んでないことに気付きました。

だから、「行けるメンバーで県を超えて提案していこう!」「出来る範囲で実践を積もう!」「高齢者が多いのならそこに特化しよう!」となりました。

そして、今だからこそ、出来ること(スポーツの発展・スポーツ権の拡充等)、感じることを、大切にしたいと思えます。私たちが自ら楽しく生きいきし続けられている環境と文化を作って行きましょう。

課題は、これからも多く出てくると思えますが、共通の課題の突破口をみんなで見つけ出したいと思えます。

愛知スキー協第 47 期(2018/7～2019/6)活動のまとめ

2019/6/20 浅井

1、スキーの楽しさ素晴らしさを広げる活動

- ① はじめての行事を実施し「クラブ力」をアップできた。(例) ぶなの木-クラブ全員が集る行事として3/16-17 梅池にて「ぶなフェスタ」を実施し、34名が参加。
- ② クラブでの話合いが出来た。(例) 深雪—毎月スタッフ会議でクラブ員のやりたいことを話合い実施した。ぶな—毎月例会を開いて行事を成功させている。直滑降—
- ③ 他県との共同行事を実施し、交流できた。(例) 関西のポール合宿に講師として参加
- ④ セッターとして全国スキー協競技会の成功に貢献した。

2、東海ブロックの一員としてスキーの楽しさすばらしさを広げる活動

- ① ブロックの会議を2回開催し、各県の現状と課題の認識を深めた。
- ② 10/20-21 交流学習会を菅平で開き身体を動かし交流できた。
- ③ ポール練習会を3回実施し技術向上に努めた。
- ④ スノーシュー・ネイチャースキーで新しいコースを研究し、実施した。
- ⑤ 初級指導員が1名合格した。

3、専門性の追求とスキー協の特色づくり

- ① 山スキーの分野で安全対策・滑降技術など研修し、山スキーリーダーが3名合格した。

4、新教呈の普及とスキー技術の研究と実践

- ① 新教呈の普及 16部

山スキークラブがクラブ員と山スキーリーダーの増員を実現しています。その取組みを学び、全体に広げることが大切です。

行事参加人数

オフシーズン

- ① 8/25-26 ブロック技術委員会(江南)&フェスタ実行委員会 16名
- ② 9/8-9 全国50周年記念サマーセミナー(キューピットバレー) 6名
- ③ 9/22 新スポ連スポーツセミナー(豊橋) 3名
- ④ 10/20-21 ブロックスキー交流学習会(菅平) 22名
- ⑤ 11/3 東海関西合同山スキー講習会(滋賀) 23名
- ⑥ 11/29 ブロック山スキーのつどい(ウインクあいち) 45名
- ⑦ 2019/5/18-19 ブロック総会(江南) 18名

シーズン行事

- ① 11/24-25 全国技術部会(志賀) 2名
- ② 12/1-2 全国中央研修会(志賀) 9人
- ③ 12/8-9 初滑り・指導員研修会(菅平) 30名
- ④ 2019/1/12-13 レベルアップ研修(野麦) 10名
- ⑤ 2019/1-11-13 全国山スキー研修会(乗鞍) 山スキーリーダー3名合格
- ⑥ 1/19-20 ポール練習(藪原) 20名
- ⑦ 1/26-27 スノーフェスタ(平湯)&第1戦 136名
2018年150人 2017年139人 2016年148人
- ⑧ 2/23-24 ポール練習(野麦) 25名
- ⑨ 3/2-3 全国50周年(キューピットバレー) 一般1名 山スキー2名 競技会8名
- ⑨ 3/16-17 指導員検定会(野麦) 1名合格 & 第2戦 35名
- ⑩ 3/23-24 全国デモ選・技術戦(志賀) 4名
- ⑪ 3/30-31 ブロック技術委員会(江南)
- ⑫ 4/13-14 全国技術委員会(志賀) 2名
- ⑬ 5/3-6 競技部合宿(野沢) 14名
- ⑭ 5/12 全国富士山滑降 11名

専門部活動の報告

山スキー部 まとめ

2019/6/9 大城記

1 今シーズンの活動のまとめ

①第21回 山スキーの集いの開催

2018年11月29日 「君も Powder を楽しもう」のキャッチコピーでウインクあいちに講師 安部 仁さん（山岳ガイド）を招いて開催した。

いろいろな積雪、雪質に対してどのようなスキーが適しているのか、その滑り方などを楽しく聞いた。

目標40名に対し45名の参加、会計的にも千円単位の黒字に収まった。

②スノーフェスティバルで山スキー、ネイチャースキーを開催

2019年26～27日 平湯スキー場山域で開催する。

・山スキー

26日久手牧場から夫婦松コース・・・6名

27日久手牧場から輝山・・・5名

積雪にめぐまれ楽しく滑れた。

・ネイチャースキー

27日乗鞍スキー場外周 子りすの径コース・・・4名

新しいコースで新鮮味があった。林間を滑るので難しい場所があった。

③大日岳でボードと一緒に滑る

2019年2月17日大日岳をボードとのコラボを計画するが、誘ったボードの人は参加せず、他のボード経験者2名が山スキー道具を購入して参加。ぶなの木メンバー4名と一緒に山スキーを実施した。

④東海関西合同山スキー講習会を滋賀県で開催

2018/11/3（土）民スポ理論・山スキーリーダー論・読図・気象・救急法・スキー技術を学び、山スキーリーダーの研修と養成。参加者は講師を含め23名、うち、愛知ぶなの木からは13名が参加。また、この講座で3名の山スキーリーダーを養成、2019/1/12～14 全国山スキーリーダー検定で合格。

⑤第47回愛知スキー協総会の活動方針に対しては、下記の山スキークラブ「ぶなの木スキークラブ」の活動の中でおおむね達成された。

スノーボード部 まとめ

文責 寺田康平

1 組織の活性化は進んだか

(1) スキー協への関わり(理事会・役員会等)

① 寺田康平がボード部長として愛知スキー協理事会へ参加。

② 寺田康平が全国ボード部員として登録。

③ 総会へは、2名が参加してくれてスキー協との関わりが進んだと考える。

④ 指導員は、1人。

⑤ 部員が2名になった。

⑥ ボードのクラブづくりに動き出す。

(2) スキー協通信への関わり

① 今は、無い。

(3) スキー協各行事の参加 と関わり=述べ 名

① 総会=2名

② 初滑り=2名

③ スノーフェスタ=4名

取り組の工夫次第で、クラブスキーの半数は取り込める行事だと思っています。

④ 1戦参加者= 名

- (4) 各個人とスキー協の専門性への関わりをどうつくるか
 ①スノーボードの指導技術＝寺田康平、
 ②スノーボードのデモ技術向上＝
 ③競技技術＝
 ④平日スノーボード＝梶田峻介、寺田康平、生協 HP の愛好家とは接触できず
 ⑤オフピステ＝加藤僚介と寺田康平で何度かトライした
- (5) ボードの現在の状況 調査依頼したが把握できず
 ①スキー協登録しているのボード愛好家人数＝
 ②ボード愛好家のいる、クラブ数＝
- (6) 今後について
 ①試しにクラブ会則案をつくってみる
 ②行事提案し、部員を増やす。
 ③ボード部の特徴を創る

東海ブロック競技部 まとめ

1 部会

定期的開催し参加者を増やすことができた。第2木曜日大会が近いときは増やす。

第1回11名 第2回9名 第3回12名 第4回12名 第5回中華街8名 第6回10名 第7回10名
 第8回8名 第9回9名 第10回10名 第11回8名 第12回9名 第13回13名中華街
 第14回10名

2 行事

- ①「S-B-B 認定整備技術者セミナー」9月21日 澤田安利 まとめ発行・部から参加費補助
 ②10月13日14日ボード部(競技部協賛)四国うどん行脚 5名
 ③東海ブロックスキー交流学習会 10月20日21日 菅平オピニオンの報告
 ④東海ブロック初滑り 12月8日9日 競技の側面からの検証よいのでは
 ⑤(イエティ正月合宿)12月23日～1月6日 妙高杉ノ原スキー場

・イエティ関係以外は参加なし

- ⑥東海ブロックポール合宿 i 藪原17名(7名減) 愛知9(-3) 三重1(-4) 静岡5 岐阜2
 ・雪不足 フリーとネトロンポール(少し)での練習(途中澤田・寺田フェス下見)
 ・三重の参加者2年で激減。三重の言葉は残していく。

- ⑦スノーフェスティバル1月26日27日出走者80名(-7)

・ゼッケンを買って教室で着用できた。 ・教室の仕方が理解できてない人がいた。
 ・セット(三宅秀和)をはじめ全体にけが人を出さない対応に気を配った。

- ⑧2月9日～11日急遽のイエティ妙高合宿に1名参加(安利・藍雅・加藤瑠璃・安藤)

- ⑨東海ブロックポール合宿 ii 野麦2月23日24日 野麦峠24名(-3)

愛知14(-6) 三重2 岐阜3 静岡5(+2)

・22日GSセット午前1H午後1H アイスバーン見通しが利かないのでその工夫が必要。
 ・24日SL超アイスバーンずれることがよく分かる。
 ・スキー協全国大会を意識したセット。天候は恵まれた。

- ⑩※全国競技会3月1日～3日 キュピットバレイ

三宅秀和・寺田康男・康平・三宅幸一・鈴木真理子・澤田安利・藍雅・棚橋和奏

・セッター三宅秀和東海ブロックとして大いなる貢献ができた。

・結果も残した。参照スキーメイト

- ⑪東海ブロックポール合宿 iii 3月9日10日 未実施 1回減る

- ⑫東海ブロックスキー競技会第2戦 3月16日17日31(33)名-20名

・1週間前危ないが降雪ありよい大会ができた。・基本的に赤字・今までのやり方は人数が少なく
 てできない。・フェスに商品が回せない。・コースを半分開けるように依頼される。・今後この方
 法で対応・優待券交渉をして確保したい＝参加者を増やす。・スキー場との行き違いで駐車場案
 内横断幕意味がなくなる。・三宅秀和セット

⑬セッター講習会 4月14日15日 澤田 テストラン藍雅

・各県に呼びかけ道具等の提案をしたが受け入れてもらえなかった。

⑭東海ブロックゴールデンウイーク合宿 4月26日夜～30日 15名(±0)

・ゴールデン後半の予定を雪不足と思い前半に(思わぬ3月末からの降雪で残念なことに)雪が多くあり水無ゲレンデ。ゲレンデに何も無いがとても良い練習ができた。・ポールとネトロン使用。

3 まとめ

①計測機の問題と対応

②参加者の減り方が急。第2戦は危機的でフェスにも影響。

③けが人が減った。対応の成果。

④HP やフェスブックが活用できた。またリザルトを速やかにアップできた。

⑤練習会も参加者が減った。

⑥全員で役員のスキー協会らしい大会運営がうまく機能しなかった。

⑦競技はスキー上達の早道、見ることの大切さが伝わらなかった。

技術部まとめ

愛知技術部員 寺田康男

I 新教程の伝達

1、(愛知スキー協通信 No,287)～(愛知スキー協通信 No,292) 6回発行

皆に共通する課題 その6「日常トレーニング編」

オフシーズン充実の為に「足裏切り替えはオフシーズンに鍛える」

① 何故オフなのか?

(1)日常生活及び他のスポーツで使わない股関節の動きと腰の向きをするから、いきなり雪上では、殆どの人が出来ないのが当たり前です。まずは、仕組みと感覚を理解し模擬経験をしてほしいのです。

(2)同時切替えだけど、左右の脚が別の働きや運動をすることを頭で理解して欲しいからです。(これは、ベーシックパラレルターンで身につけたはずの技術です。)

(3)東海ブロックの技術委員会で試してみたのですが、出来ない人は、手の平を使ってうまく表現できないのです。

(4)時間をかけて、床上で経験を積み重ねて、雪上に臨んでほしいのです。身につくのに時間の掛かる特別な運動だから、オフシーズンなのです。シーズン直前では間に合わない人が多いから、ここで訴えます。

② そんなに重要な?

(1)素早く切替え、適切にターン全体を外足伸脚で捉えるには、これに尽きるからです。

(2)それなら、ベーシックパラレルターンより先に重要視すれば良いのでは?

i 同時切替えの部分に限れば、経験上こちら操作のほうが理解し易いひとがいるのですが、「足裏切替えターン」と言っていますが次の切替えまでの一連の運動こそが重要なのです。運動操作はベーシックパラレルターンに集約されていて、両方をミックス出来るのが最善です。

ii 東海ブロックでは、初心者には「ユラユラターン」として導入しています。

③ どうやる(鍛える)の?

(1)教程書を読んで・DVDを見ながら、掌で他人と論議、伝達を交わしてください。手のひらで表現できない人は、足裏で、雪上で、できる訳がありません。

(2)それができたら、腰にロープを巻きつけて、片方の端は柱に結んで、引っ張り合いをしながら、練習するのを私はお勧めします。 終わり

2、新教程書の普及 17冊販売した。指導員27人

II あなた自身の中に目標となる、あなたの技術テーマの提出を要望して

1、5回で37名より聞き取りを含む

2、用紙をわたせば、大半の者はその場で記入提出してくれるようになったが、未提出者もいる。

- 3、シーズン前に自ら考えるひとはまだ少ない
- 4、文章レポートは、まだ根付かない（寺田康男、澤田安利）

Ⅲ レベルアップ及びデモ選への挑戦

- 1、指導員、研修会参加者の減少
- 2、今回は（佐藤、永野、）寺田、三宅の2名が挑戦した
- 3、デモ選対策練習会を2回行う

Ⅳ 事務所のボード場の部会開催

- 1、機能せず

Ⅴ 研修会開催並びに内容の充実

- 1、参加者の理解度は以前に比べ格段に上がった ②参加率が低い

活動の方針案

スキーの楽しさすばらしさを広げる活動の展開

1 組織の活性化のために（初めての出来事を、視点を変えてよりよく発展させます）

- (1) それぞれのクラブがそれぞれにあった「クラブ力」をアップしていくために「もがいて」ください
 - ・このクラブでしかできない、行事・話し合い・特典・練習方法を考えます。✓特に実践してほしい項目
 - ・今ある環境が5年後も存在するクラブにします。
 - ・今ある、楽しさが今後も引き継がれるためにみんなで考えます。
 - ・高齢化にふさわしい企画や制度を実現します。
 - ・担当者に任せきりにしない、役割や担当を交代して民主的な運営をこころがけます。
 - ・同じ企画でも視点が変われば、新しい企画になるはずです。
 - ① ✓平日に、スキー行事を組織しよう
 - ② それぞれの例会を定期に開催します。
 - ③ 機関紙をみんなで作ります。
 - ④ オフトレをします。
 - ⑤ ✓各行事のどこが自分にとって、魅力があるのかはっきりさせ、人を誘います。
 - ⑥ みんなで学習・研究をします。
 - ・どうしたら、安全が得られるのか(オピニオン講習会の参加)
 - ・どうしたらスキーが上手くなるのか
 - ・どうしたら、スキーを長く続けられるのか
 - ⑦ ✓いっしょにやって、意味のあること一緒にやる相手を見つめます。
 - ・家庭や親族で(家族でクラブ行事に参加する)
 - ・職場で・地域で
 - ・いろいろな種目に挑戦し、その仲間と(今までやったことのないスポーツや遊びに挑戦)
 - ・新クラブ員の拡大をして、その友達も誘って
 - ・クラブ間交流行事をして
 - ・他県との協同行事をして(新しいクラブ作り)
 - ・全国スキー協の企画に参加して(全国大会への要員参加)
 - ・スポーツ連盟行事に参加して
 - ・他団体行事、企画に参加して
 - ⑧ クラブ対抗クラブ力ポイント制度を考えます
- (2) 安全なスキーのために
 - ① 今まで付けていなかったプロテクターを着けて、自分の身は自分で守ります
 - ② ヘルメットやプロテクターを着ける働きかけを、更にしめます。

- ③ 競技や練習が安全にできるように取り組みます。
 - ④ 全ての事故を理事会に報告し易い簡単な、書式の報告書をつくります。クラブ内での担当者を決める
 - ⑤ 前年の事故事例で学習し、みんなの命はみんなでももります。
 - ⑥ 滑る前の安全確認をし、危険な場合は滑らない決断をします。
 - ⑦ スキー場の安全提言をします。
 - ⑧ 山スキーの安全提言をします。
 - ⑨ 行動前には、ストレッチ等の準備運動を習慣づけます。
 - ⑩ ✓日常生活の中にトレーニングを取り入れます。
 - ⑪ ゲレンデの飲酒は、やめよう。遅くまでの深酒も慎みます。
 - ⑫
- (3) クラブが基本ですクラブの動き、現状を具体的につかみ合い、状況の解る論議をします。
- ① ✓理事会で 新しい取組を1つ紹介します。それぞれの、クラブにあった「クラブ力」を追求します。
 - ② 新しい会員が新しい人を連れてきます。クラブを活性化するためには、クラブ全体がそのことを認識して、定着する為の行動と対策を執らなければクラブは日常的な再生力をなくします。
 - ③ ✓各クラブの特色を創り、培われたスキーの楽しみ方および、得意な技術の継続と発展をさせます。
 - ④ クラブの構成実態(スキーヤーとボーダーの人数把握、大人と子ども人数の把握、メイト普及と活用状況、クラブ名簿の整理等)を把握します。
 - ⑤ クラブ相互の協力と援助が大切です。クラブ懇談会を随時行います。
- (4) 具体案です。
- ① ✓古くなった慣例行事を見直しましょう
 - ② 2名だけになってしまったクラブは、他のクラブに入るか、新しいクラブを作ろう
 - ③ 新しいクラブを創ります。年代別のクラブの芽を立ち上げます。(8→10クラブ)
 - ④ 役員会は、理事長、副理事長、専門部長、事務局長、事務局次長、会計で構成します。
 - ⑤ 理事会に、組織担当者・安全担当者・をおきます。
 - ⑥ クラブは30人以上を目指します。
 - ⑦ スキーメイトを活用しての購読者を10%増やしましょう。メイトにクラブの行事の記事を送りましょう。各クラブで担当者を決め配布・集金をします。
 - ⑧ 交流学習会を80名。12月の初すべり&指導員要請・研修会を100名で行います。1月27日から28日の平湯・スノーフェスティバルを全国の参加者の裾野を広げる運営・企画・競技方法に賛同する人に働きかけて200名(愛知参加者だけで150名を目標)で成功させます。第2戦競技会を70名で行います。
 - ⑨ 愛知スキー協の会員を300名にします。

2 東海ブロックの一員として、スキーの楽しさすばらしさを広げます(東海ブロック行事表参照)

- (1) ✓火曜日に日帰り行事提案します。
- (2) ✓きちんと見せるデモスキー技術を磨きます。(フェスティバル開校式で)
- (3) ✓みんなで作る競技会運営の技術のノウハウを研修会等で学びます。
- (4) ✓人をひきつけるスキー教室の研究・実践をします。
- (5) ブロックの連絡を取り合い、それぞれの現状を確認しあいながら、さらに連帯を強めます。
- (6) ✓拠点スキー場を決めて、新しいクラブ作りをとりくみます。
- (7) 東海ブロック総会を5月におこないます。
- (8) 10/26・27に技術講座合宿を行います。(競技部ワークショップで競技会開催・運営のノウハウ)
- (9) スキーシーズンを楽しく迎える為に9/7・8に交流学習会を成功させます。
(組織論を考える機会にし、クラブや専門部の核づくりの場とする)
- (10) 技術委員会のレベルアップと体制強化を図り、東海ブロック全体が楽しく上手くなるようにしよう
(1月レベルアップ研修)
- (11) 安く参加できる目玉行事として、若者に呼びかけをして、12月の初すべり&指導員養成・研修会を提案します。
- (12) 楽しさと、ここでしか味わえない付加価値を更に積み重ね、増幅させて、平湯スノーフェスティバルを提案します

- (13) 初心者から上級者まで同じコースで楽しめるスノーフェスティバルの第1戦の成功とSL競技ができる第2戦の開催と成功を目指します。
- (14) ポール練習会を2回以上開きます。
- (15) 以上の企画を各県の特徴を出しながら系統的に繋がりを持たせて、組織の拡大を目指します

3 スキー協らしい専門性の追求とスキー協の特色づくりをします。

- (1) 指導員にはこのテーマで一行のレポート報告をしてもらいます(あなたが特化しようとするもの)
- (2) スキー協としての各種専門分野と担当部及び責任者ならびに目指す方向性

① 競技	競技部	初心者から上級者まで全員参加してつくる競技大会
② 山スキー	山スキー部	どんな雪でも楽しく、安全に
③ 指導員技術	技術部	レベルアップ 新教程書の普及
④ スノーハイキング	フェスティバル実行委員会	新たなスノースポーツ開発とスキー協らしき作り
⑤ ネイチャースキー	理事会	自然と深くかかわる新しい分野の組織化
⑥ テレマークスキー	山スキー部	新しい分野の組織化
⑦ こどもスキー	理事会	次世代スキーヤーの養成
⑧ <input checked="" type="checkbox"/> 日帰りスキー	理事会	安く参加できる行事と組織作り
⑨ スノーボード	理事会	ボーダーの組織化
⑩ おもしろ競技	フェスティバル実行委員会	新たなスノースポーツ開発とスキー協らしき作り
⑪ 雪遊び 雪合戦	フェスティバル実行委員会	新たなスノースポーツ開発とスキー協らしき作り
⑫ スキーメイト普及	理事会	読者を増やす
⑬ 基礎的なスキー技術	各クラブの技術部	技術向上と組織強化
⑭ 安全対策	理事会	人の命を守る

4 教程の普及とスキー技術の研究と実践をします。

- (1) 指導員は自分の技術テーマを発表します。
- (2) 指導員は、研修に参加し指導法を研究します。
(養成講座×6回、研修講座×16回、検定回×3回、STT×6回を全国へ申請します)
- (3) 指導員の役割と必要性をはっきりさせます。(研修会の強化・研究レポートの提出)
- (4) 初級指導員を3名、中級指導員を2名、上級指導員を1名養成します。
- (5) 技術部員は、技術委員会のメンバーと機能を発揮し、スキー技術を向上させる方法をきちんと伝えます。
- (6) 山スキー入門コースを複数行い、山スキー人口のすそ野を広げます。
- (7) 山スキーリーダーを3名増やします。
- (8) 山スキー部は、ゲレンデ外を安全に滑る技術を実践し、技術向上を図り、広めます
- (9) 競技部は、ポール練習会を3回開き、技術向上をはかります。
- (10) 新しい競技方法を模索します。(スキーもボードも両方楽しめて安全な旗門・複合競技方法)
- (11) セッターを増やします。
- (12) ボード部で指導員の養成と教程書の普及を三重、静岡、全国ボード部との連携をとって行います。

5 スキー協を外部に広げる活動をします。

- (1) 宣伝物を持ってそとにでます
- (2) 各クラブのメイン宿舎にメイトと新教程書とクラブの機関紙(ニュース)を置きます。
- (3) スキーの行事に誘うことが一番手っ取り早く効率的です。
(スキー交流学習会・初すべり・スノーフェスティバル・競技会・専門部行事・クラブ行事)
- (4) フェイスブック・ホームページの更新をみんなで支えます。
- (5) 他団体との協力共同の取り組みを創ります。

付録資料 各クラブ報告

(別紙として、各クラブの活動報告として作成)